平成２２年度第２回「鎌ケ谷市保健・医療・福祉問題協議会」会議録

◇ 日　時：平成２３年　２月１７日（木）１４時～１５時００分
◇ 場　所：鎌ケ谷市総合福祉保健センター　４階会議室
◇ 出席者：下記名簿のとおり

○鎌ケ谷市保健・医療・福祉問題協議会委員　（敬称略）

号	会長等	氏　名	役　職　等	出　欠
1	会　長	中井　愃雄	鎌ケ谷市医師会長	出席
		石川　広巳	鎌ケ谷市医師会	欠席
		古池　輝久	船橋歯科医師会長	欠席
		小林　数夫	船橋薬剤師会	出席
		小島　英子	千葉県看護協会	欠席
2	副会長	鈴木　秀承	鎌ケ谷市社会福祉協議会長	出席
		川村　浩幸	特別養護老人ホーム慈祐苑施設長	出席
3		島岡　貞男	鎌ケ谷市自治会連合協議会長	出席
4		藤木　哲郎	千葉県習志野健康福祉センター長	出席
		山本　穰司	鎌ケ谷総合病院長	出席
5		稲生　哲彌	鎌ケ谷市市民生活部長	出席
		鈴木　操	鎌ケ谷市健康福祉部参事（代理）	出席
4		石坂　ミチエ	公募による市民代表者	出席
		山浦　正次	公募による市民代表者	出席

○事務局

氏　名	職　名	氏　名	職　名
福留　浩子	健康増進課長	小池　誠	健康増進課主査
鈴木　恵子	健康増進課長補佐		

◇ 会議の議題
（１）会議署名人の選任
（２）保健・医療・福祉一次機能としての役割取り組みについて
　　福祉現場における「自殺予防対策」
　　特別養護老人ホーム慈祐苑施設長　川村　浩幸
（３）その他

事務局　　：　大変お待たせいたしました、定刻となりましたので鎌ケ谷市保健・医療・福祉問題協議会、これから開催させていただきます。

なお、本日は１号委員の石川委員、古池委員、小島委員が都合によりご欠席のご連絡をいただいてございます。

はじめに資料の確認をお願いいたします、お手元に表紙がついた会議次第が１ページ目、２ページ目に出欠表が入ってございます、３ページ目に座席表が入ってございます、４ページ目にこちらの設置要綱が入ってございます、その後ろに本日のご講演いただく川村施設長さんの「福祉現場における「自殺予防対策」」っていうレジュメが入ってございます。

それともうひとつ、参考ということで全国学校保健・学校医大会で発表されました、「自尊感情を育てて生活習慣病を予防する」という内容のレジュメが入ってございます。

あと別紙Ａ４版になりますが、先回開催された９月３０日以降に鎌ケ谷市で取り組んだ内容等が、一欄になってございます。

それともう一組が、こちらの啓発のファイルに入ってますが「気づいてつなげるいのちの絆」、これは３月の月間に懸垂幕ということで掲げさせていただくものがひとつ、あとは医療機関においていただくメッセージカード、いのちを大事にして下さいっていうことで啓発するものが１点。

あとひとつは缶バッジがお手元に入っているかと思います、この缶バッジも缶バッジをもって自殺予防の取り組みとしましょうとの内容になってございますので、委員の皆様にはお付けいただければ幸いかと考えております。

不足しているものはございますでしょうか、特にない様でございますので、それではこれ以降の議題につきましては設置要綱第６条の規定によりまして、会長が議長となります、議事進行をお願いすることになるわけです。

中井会長よろしくお願いいたします、議事録作成のために録音をさせていただきますのでご了承ください。

本日の傍聴者はいないとのことでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長　　：　それでは早速会議を始めたいと思います、皆さんのご協力をいただきまして速やかに進めたいと思いますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

はじめに会議録の署名人を選任いたしますが、これは事務局に

一任したいと思います、事務局説明をお願いいたします。

事務局　：　それでは本日の会議録署名人につきましては、石坂委員と山浦委員さんにお願いしたいと考えております、お願いいたします。

会長　：　それでは石坂さん、山浦両委員よろしくお願いいたします。

講演のほうでございますが、事務局のほうでご紹介願えますか。

事務局　：　はいわかりました。

それでは本日の第一点目としまして、参考意見の聴取という形になりますが、本協議会の委員さんでもいらっしゃいます特別養護老人ホーム慈祐苑の施設長であられます、川村委員さんから福祉現場における「自殺予防対策」についてということで、３０分ほどお話いただきたいと考えております。

その後にまた、保健・医療・福祉のそれぞれのお立場からのご発言をお願いしようと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

川村委員　：　ただ今ご紹介いただきました、特別養護老人ホーム慈祐苑で施設長をしております川村と申します、どうぞよろしくお願いいたします。

今日はですね、高齢者といいますか福祉現場における自殺予防ということで、講演してくれということで頼まれまして、大変皆様方大先生のいらっしゃる中でですね大変恐縮に存じますけども、あくまでも幅広いというよりはむしろ福祉現場のほうが高齢者の方々が中心の福祉現場なものですから、この高齢者の方々における自殺予防という観点でお話が出来ればと思っておりますので、大変ちょっと話し方もですね、つたなくて大変恐縮なんですけども、お聞きいただければなと思っております。

で資料につきましては、この第２回の次第の中にレジュメという形で入っておりますので、それに沿いましてお話しができればと思っておりますので、ご協力のほうよろしくお願いいたします。

ここでちょっとすいません、座らせていただきましてよろしくお願いいたします。

それではまずはじめに福祉現場における自殺予防対策ということで、まず特別養護老人ホームについてのですね、自殺対策についてからお話させていただきたいと思っております。

まず簡単に特別養護老人ホーム慈祐苑の、事業紹介をさせていただけたらと思っております。

まず慈祐苑は、介護老人福祉施設なんですけども長期入所とい

いまして、定員１３６名で長期間お入りになっている方が入居されております、下にですねどういった対象者の方が入居されているかといいますと、常時介護を必要とする要介護状態の高齢者が入居されております。

要介護は１から５までの方が入居されておりまして、主にですね上に書かれておりますが、要介護４・５の方々の占める割合が９１名で６６％という形で非常に高い数値になっております。

平均年齢は８８歳ということです、最高年齢者は１０７歳の方が生活していただいております、この１０７歳の方はおかげさまで鎌ケ谷市で１番最高齢の方で、市長様ですとか時々ですね来られていただきまして、最高齢の方ということでいろいろとお祝いの言葉ですとか、いただいているような次第でございます。

次にその他の事業の種類でございますけども、短期入所生活介護といいまして、これは別名ショートステイと言っております、ご家庭で介護をされている方が冠婚葬祭等で一時的に介護ができなかった場合に、施設のほうでですね１週間・２週間、あるいは３日ですとか１日ですとか、お泊りいただいて介護をするというようなサービスでございます。

で次に通所介護、これはデイサービスセンターといいます、デイサービスセンターといいますのは、１日ですねこちらの車でご自宅までお迎えに行って、そしてその１日を施設の中で食事をしたり、入浴をしたりいろんな体操をしたり、レクリェーションを通じて過ごしていただいて夕方帰る、というようなサービスでございます。

あと居宅介護支援事業所といいますのは、要介護認定を受けられたあとにですね、いわゆる福祉のサービスの計画をする作成機関になっております。

それとあと地域包括支援センターですね、平成１９年の１０月から鎌ケ谷市様から指定を受けまして、地域包括支援センターをやらさせていただいております。

でこの主な業務としましては、介護に関する２４時間体制の相談業務はもちろんのことですね、高齢者虐待のことですとか、あと認知症のことですとか、あるいは要介護になる前の特定高齢者の実態調査ですとか、予防プランですとかそういったものを担当させていただいております。

あともうひとつが配食サービスという部分です、配食サービス

は高齢者支援課様が窓口になっておりまして、今慈祐苑ではとりあえず夕食を配らさせていただいております、１日平均３０件から３８件ですね、月から金までやらさせていただいております、個人負担はちなみに５００円という形になっております、その他は市の方からの補助で運営がされているというような状況です、この配食サービスにつきましては後ほど詳しく触れていきたいと思うんですが、とりあえず対象は高齢者世帯と単身世帯ですね、独居の方を中心にしてお弁当を配らさせていただいております。

以上が主な事業概要になっております。

それでは実際にじゃ特別養護老人ホームではどういう自殺予防をしているんですかって事に関してなんですが、それが次の自殺予防という形になります。

でホームはですねたとえて言うならば、他人同士が集まってひとつの地域を形成していると、思っていただければいいかなと思っております、と言いますのはお部屋はご自宅であり、そして一歩外に出ますともう地域と同じような関わり方になります、ですから職員がどちらかと言うと住民と見ていただければいいかなと思っています、入居者の方が高齢者世帯であり職員の方が住人、というような形で見ていただけると非常にわかりやすいのかなと思っております。

その関係もあってと思うんですけども、今のところ平成元年から慈祐苑運営されておりますが、この２２年間自殺のほうは１件もございません、１件もございません、これはなぜかと考えてみた時にですね、今申しましたようにホームというまあひとつの生活の場でありますから、ひとつの地域の場でもあるということで考えて見ますと、まず職員がですね常時ホームの中には居るということです、ですから閉じこもりですとか孤立っていうことがまずないんですね、必ず声をかけて自立支援をしておりますので、また何かありましたらすぐにでも専門職種が対応できているという部分においてですね、気持ち的にですね強い部分があるのかなと思っております。

ましてや慈祐苑の場合運がいいことにっていったらいいんでしょうか、となりに道野辺診療所という診療所の機関がございます、またその先生が嘱託医にもなっておりますので、いわゆる体の変化もすぐにでも対応できるし、また医務室も完備されておりますから看護職も健康相談にものれますし、また介護職員が日々見守

りや声かけを行っておりますので、その時々の変化に気がつくという点ではですね、まあ地域と比べてみたらもちろんそれはあのひとつの狭いところでの話しではございますけども、その点ではですね非常に恵まれているという部分を考えますと、今のところそういった自殺とかそういったことはなかったのかなと、いうような感じでは思っております。

でここにも書いてあるんですけども、施設内では職種間のネットワークといいますか情報の共有化が出来ておりますので、変化があったらすぐ気づくことが出来るということと、あと介護ですとか栄養面、健康管理はもとよりですね、規則正しい生活がまず確保できているということですね、でちなみになんですけども９０歳以上の方が１３６名中５９名います、でそのうち９名の方が１００歳以上なんですね、で平均年齢から見ましたようにやはりもちろん、栄養面はもちろんそう、専門の方が来てるからまあその栄養面も充実が図れているんですけども、やはりそういうことを考えますと、やはりそのたしかに集団生活ではありますが、やっぱりその規則正しい生活のもとで、かつ皆さんの目が行き届くということにおいてですね、そういったこう自殺っていうかそういうことがないのかなっていうのは私自身は感じております。

片やその一方で、地域包括支援センターっていうのをやっているんですけども、これはですね在宅の高齢者の方を対象にしておりますので、特に特定高齢者の方ですね、いわゆる要支援状態になる前のある程度元気な方を対象にして、実態調査ですとかそういう形で関わらさせていただいております。

でまあ資料１・２とありますけど、これはもうすでに皆様ほとんどご承知かと思われますが、一応念のためにですね鎌ケ谷市の高齢者の状況ということで、平成２２年４月１日現在ではございますけども、総人口が１０万とんで７,３２２人ということですね、で６５歳以上が２２,６１２人の方々がいらっしゃいまして、高齢化率が２１％、でうち一人暮らしの方が２，０１３人、高齢者世帯が２，８７１世帯という形の状況になっております。

でまあパーセンテージに直しますと、一人暮らしの方は全体に占める割合は１，８％、高齢者世帯が２,６％ということで、まあこれを見てしまうと１０％いってないのかと思われるかもしれませんが、これはやっぱり非常にもう大きいのかなというふうに感じております。

また千葉県での自殺の現状としましては、自殺者が１，２５８でこれは平成２０年のデータということなんですけども、うち７０歳以上が１９１人で約１５％を占めていると、でそのうち死因の第１位が健康問題、約３５％、次に生活経済問題が約１８％っていう感じですね、ですからそれを考えますとまあホームと比較してはいけませんけども、ホームの場合はこの健康問題に関しては、先ほど言いましたけども嘱託医もいれば看護職員もいますから、その部分ではすぐに相談乗りながらといいますか、変化に気づきながら対応できているので、その意味で大丈夫なのかなっていう感じはしております。

で次に資料２からもわかりますようにということで、これはもうそのまま読んでいるんですけども、自殺者の半数以上が健康や経済問題で自ら命を絶っているということですね、もし行政ですとかまあ我々その福祉サービスを展開している事業所もそうなんですけども、何らかの支援があれば防げた可能性もあるということです、で次ちょっと２枚目を。

２枚目でまあ自殺に至るまでの背景ということで、その方が地域の中で社会的に孤立して、人間関係の希薄な生活を送っていたことが考えられるとか書いてありますけども、やっぱりなかなか今の時代ですね、隣近所といいましてもなかなか把握できない、またへたをすると誰が住んでいるのかわからないというね、社会情勢も、社会事情もございますので、やはりここらへんがやっぱりまあ情報もそうですけども、やっぱり孤独にさせないということに関しては、いかに地域でのつながりが大切かということがうかがえるのかなと思っております。

でまたですね一応地域包括支援センターでは２番目に書かれておりますけども、民生委員の皆様方や、あるいは社会福祉協議会様によりますボランティアの助け合い事業等々ですね、もちろん行政とも連携をとりながら実態把握調査ですとか、情報交換をしてはいるんですけども、つい最近ですけども谷地川町会ってのがあるんですが、あの中沢のほうにあるんですけども、皆様きっと新聞記事でご存知かと思うんですが、その谷地川町会の中の第５班のご自宅だったんですけども、長男さんとその親御さんお二人が暮らしていて、最近なかなかそのいつもですと散歩ですとかしていたらしいんですが、ちょっと顔が見れないというかそういう姿が見えなくなったということで、民生委員さんとですね行政の

方、それで地域包括支援センターも訪問させていただいてたんですけども、その都度ご長男さんていうか息子さんが出られてですね、大丈夫ですよ湯治に行ってますよ、旅行中ですよって感じでなかなか会せてもらえなかったと、であまりにも見かけないもんですから警察の方にもお願いして行ったら、中で遺体となって発見されたというような事例もありました、本当に慈祐苑の近くなんですね、谷地川町会っていうのは本当に慈祐苑の近くでして、そういうことがありました。

まあこれはあくまでも事例ですけども、やはりこういうことを考えるとなかなかいってもですね、確かに難しい部分あると思うんです、ご家族の方が出てきて旅行だよいないよと言われれば、それ以上踏み込めないっていう部分もございますけども、やはり最初の発端というのは、民生委員さんからのなかなか顔が見れない、いわゆる最近ちょっと出てこないっていうその情報の中で始まったことだと思いますから、やっぱりそういったこう情報源ていうのは大事かなと改めて思っている次第です。

それと先ほどから言ってますように、ここに自殺予防に向けた取り組みを進めていくためにはと書いてありますけども、地域で孤立している方や孤立しがちな方を、いち早く発見して実態を把握する必要があると、そのためには地域住民の協力が不可欠であるということですね、先ほどからちょっと言ってるとおりのことでございます。

あと今後の支援センターの取り組みといたしましては、発見に役立つサインと見守りのポイントですね、等のそのパンフレットなどを作成してですね、地域住民に協力を呼びかけていきたいということですね、またこれには地域包括だけでは出来ませんので、当然行政を含めた関係機関いわゆるお医者さんもそうですけども、かかりつけ医の方などと情報交換しながらですね、連携をとりながら安心して暮らせる地域づくりを目指したいと、これはあくまでも大きな課題でございます、やっぱりネットワークの構築っていうのが必要になってくるのかなと思っております。

で今、国のほうでもですね介護保険の改正が、２４年４月に大改正を迎えます、で今現在、介護保険のほうでは国のほうとしては地域ケアの推進ということで、それを項目に挙げましてですね、取り組み５つあるというか審議している最中でございまして、それをよく聞きますとですね、どうもその中学校区というかですね、

そういうこうすこし広い意味で、見守りをしなさいっていってもあまり広くても見守り出来ないわけですから、当然サービスを展開するにしても、あまり広かったらなかなかサービスを展開しづらいと、そこをその中学校区ですとかそういう小学校区ごとに区切ることで、住みなれた地域で介護保険サービスも受けられるし、また自宅にいながら必要なサービスが受けられるような体制を構築していこうということで、そういうような動きもあるようでございます、ありがとうございます。

で発見に役立つサインとしましてはですね、先ほどもちょっと触れましたが、まず顔を見せてなければですね、当然やっぱり気になりますので、やっぱりそこらへんは情報を共有したほうがいいんじゃないかと、あとまあ洗濯物を干してないとか、なんて言うんですかね、室内にこういつも明かりが点いているところ点いてないとかですね、あるいは新聞・郵便物がとられていない、まあそれもまたひとつのサインなのかなと思っております。

それとちょっと最後のページになりますけども、あとまあ地域で見守るポイントといたしましては、ホームでもそうですけども常に声かけを行っております、とは言いましてもこれはなかなか声かけと言いましても、近所の方にですねさりげなくおはようございますとは言えても、今日いい天気ですねとか、なかなか声かけをするっていうのは、非常にこう勇気のある部分いるというかですね、やれるようで出来ない部分があるかと思うんですが、まあやはり地域で見守るポイントとしては、まず声かけが必要であろうということと、あとあからさまに見守ってますよっていうんじゃなくて、さりげない見守りも必要であろうと。

であと先ほど配食サービスを行ってますよってことをお話しましたけども、この配食サービスに関しましては、非常にですね見守りにおいては、とても重要なサービスのひとつになっております、と言いますのは過去にもう何例か、自宅にお弁当を届けたら返事がなかったで返事がないもんで、かといって強引に鍵がかかってますから開けることが出来ない、そこで民生委員さんですとか消防署・警察署に依頼をして入ったら中で倒れていたと、あるいは亡くなっていたというケースが現にございます、ございました。

ですからそういうのを考えますと、この配食サービスっていうのは確かに１食５００円個人負担かかってしまうんですけども、

その意味ではなかなかこう話す機会が少ない高齢者にとってはですね、であの配っていきますと皆さん言うのはよく話すんですね、やっぱりそれだけこう話し相手というかですね、なかなか近所の方いないのかなと思うんですけども、よく配っている方々から聞きますとよく耳にします。

で特にあの南部地区社協のですね方々にご協力をいただいて、このお弁当配らさせていただいておりましてですね、あの慈祐苑も本当にこう感謝申し上げてるんですけども、この配食サービスに関してはそういう安否確認っていうことに関しては、とても有効なサービスのひとつでもございます。

であとはまあ新聞屋さんですとか郵便配達の方にもですね、こういうようなまた気がついたらっていうことで、依頼をしておくとまた違うのかなということと、あと先ほどから申してますようにやっぱり地域の連携っていうのはこれ重要であるということですね、特に地域だけではなくて我々やその福祉施設の事業所もそうですけども、また医師やその関連機関全ての部分においてそういう情報交換が出来ていればですね、防げるものもあるのかなというようなことは強く日頃から感じております。

まあ本当につたない話でですね大変恐縮ではございますけども、いずれにしてもまあ本当に最終的にはですね、こう自宅にいても住み慣れたところにいてですね、いろいろとこう話ができたり見守りが出来たりですね、サービス展開が出来るっていうのが、一番将来的には理想なのかなっていう感じで思っておりましてですね、まだまだ我々福祉現場ということに関しましても、まだまだ不十分な部分もあるんですけども、これからまあ職員とですねいろいろとこう話し合いながら、また行政機関の皆様方あるいは地域の民生委員さんやまたは社会福祉協議会の皆様方、あるいは自治会の皆様方の意見を聞きながらですね、少しでもお役に立てるようなサービスを展開していければと思っております、はなはだちょっとつたない話で恐縮でございますけども、以上を持ちまして終了いたします、どうもありがとうございました、申し訳ございません。

会長　：　どうも川村委員、どうもありがとうございました。
それでは事務局、参考資料の説明等をお願いできますか。

事務局　：　はい、わかりました。
それでは参考資料のほうのご説明をまずさせていただいてから、

やりとりに入らせていただこうかと考えます。
　ただ今の施設長さんの資料のあとを少しご覧いただければと思うんですが、前回の９月３０日のこちらの保健・医療・福祉問題協議会におきましては、精神科医の大塚先生から自殺の危機経路のご講演をいただきました、その折に家庭・子供・教育に焦点を当てて対応が求められているのではないかというようなお話があって、そのキーワードに自尊感情を育てることが大変重要であるとのお話をいただきました。
　で今回資料として、全国学校保健・学校医大会「自尊感情を育てて生活習慣病を予防する」という内容のものが入っておりますが、この内容の２ページ目を少しお開けいただければと思います。
　こちらの２ページ目には内容的には生活習慣病に視点があたっておりますけれども、私はこの演題の中で「早寝・早起き・朝ごはん」全てクリアされている児童は、自分に良いところがあると思えるなど、自尊感情も良好である。
　「早寝・早起き・朝ごはん」を摂ることと、生活習慣や自尊感情とが密接に関連しているという、この事実に着目をさせてもらいました。
　この事実は前回の大塚先生のお話にも通じるところがございまして、自殺予防という視点のポイント、命を大事にする、人と人がいつも繋がっている、人とのコミュニケーションを大事にする、などのメッセージを、気がついた保健・医療・福祉それぞれの領域から発信していくことに意味があるのではないかと考え、こちらの参考文献を引用させていただいております。
　また先週の土曜日・日曜日ＮＨＫで「無縁社会・新たなつながりを求めて」という内容の放送がされておりましたが、ご覧いただいた方いらっしゃるでしょうか。
　そちらの内容を見ておりますと、本協議会における自殺予防対策としても、新たなつながりというあたりのところを求めるとした場合、今、慈祐苑施設長さんが施設内をたとえての例を引かれてお話をいただきましたけれども、そういった例が地域の中で展開してくということを考えた場合、引用させていただいたこの「早寝・早起き・朝ごはん」いわゆる生活リズムが良いこと、規則正しい生活が出来ていること、などがとても活用度の高い内容として引用出来るのではないかと解釈しております、その辺委員の皆様はいかがお考えかといったあたりのところを、後ほどご意見な

どをいただければありがたいなと考えております。

それとあとＡ４版の１枚にまとめてございますが、前回開催のちに鎌ケ谷市行政等で取り組んだことということで、引用させていただいている一覧がございます。

こちらは１次予防、９月３０日の前回の開催時に１次予防・２次予防・３時予防ということで、その１次予防は啓発を中心として、２次予防というところはいろんなところをネットワークでつなぐってあたりのところを中心として、で３次予防というのは一応未遂等で終わってしまっている方たちを助けるための内容を中心として、そういった内容の視点を意識して取り組んで、このＡ４版に書かれていることは実施してきたわけでございます。

ご参照いただければよろしいかと思うんですが、３月は自殺対策強化月間でございます。

でそういったことがございますので、お手元のこちらのクリアファイルの中に入ってございます、「気づいてつなげるいのちの絆」の懸垂幕を、市役所の正面玄関に一応懸垂させていただく予定です、３月１日から３月３１日まで懸垂させていただこうと考えております。

同じフレーズの内容でこちらのクリアファイルの中に入れさせていただいています、日ハムのカビー君が一応表の顔になっておりますが、「気づいてつなげるいのちの絆」ということで、皆さんで声をかけるといったあたりのメッセージを込めた、缶バッジということで作成させていただいております。

もう１点はこちら院長先生おいでになってますが、鎌ケ谷総合病院等にお願いしてございます、いわゆるこうリストカット等で緊急搬送された方々へ、困ってることがあったら相談して下さいねというメッセージカード、そのカードを作らせていただいて１月上旬に医療機関の方にお願いしている、ということで今回展開させていただいてきました。

こういったことを含めまして取り組んでまいりまして、また後ほども発言させていただこうと思ってますが、今後への取り組みもこういった内容を引用しながら、展開させていただこうかと考えております、以上です。

会長　　：　はい、どうありがとうございました。

それでは皆さんのほうにお願いがございますけども、ただ今の川村委員のご講演並びに事務局のほうの資料に関する説明に関し

まして、何かご質問ございます委員の方いらっしゃいましたら、ご発言をお願いいたします。

山浦委員　：　よろしいですか、質問じゃないんですが、慈祐苑のほうへは私の母が３年少し前にご厄介になってまして、まあ現在も今年の４月１日で９５歳になってね、私より元気でやってるんですが、非常にお話を聞かせていただけて非常に安心ひとつ私しました、ていうのはこういうお話を先ほどありました、ご自身にされているんだと思うんですが、規則正しく目が届く生活ということは非常にぴったりしてるんじゃないかなと、いうことで非常にありがたく思っております。

はじめちょっと不安な点はあったんですが、ケアについては計画書を作る段階で家族が参加してですね、本人がどんな生活どんな状態であるかということを説明を受けたうえで、いろいろなんですか分野の方が職種の方が、４・５人でとらえているんですよ、それぞれの立場からいろいろ総合的にお話をうかがうことができまして、非常にありがたいというふうに思っております。

確かにああいう状態であれば、確かに自殺はおきないんだというふうに思ってます。

それともうひとつはですね、今年、今年じゃない去年か、国勢調査がありまして、調査員でまたどうしてもやってくれって言うからまあしょうがないってことでやったんですが、大体７０％ぐらいの人がですね昔でいう普通の生活ですよ、昔でいう普通の生活の方が７０％ぐらいのところ私が回った地域ではですね、非常に感じました。

ということは朝連絡するとか夕方連絡するとか、何とか連絡つくっていうんですから、お顔を合わせることが出来るご家庭が、安心して会える家庭が７０％ぐらいですよ、それでこれは危ないなって本当にいう意味で危ないなっていうのは、やっぱり５％から１０％ぐらいの方が危ないんじゃないかなと、本当にその方をこう見た時にですね、どういう生活してるかというのはまあ国勢調査員ですからまあ大体わかりますんで、この辺がというような方たちですねそういう生活ぶりです。

あとその中間の人っていうのはですね、様々ないわゆるその新しい社会の変化がありますんで、様々ないわゆるその問題を抱えてやっとここう生活を続けていると、いうふうなことがちょっとうかがえましたですね、そういったことでやはり目がなかなか行

き届かない家庭ってのは、やはり先ほど言いました５％から１０％ぐらいの方がいるのは感じるということです。

で先ほどのＮＨＫの無縁社会ですかあれは非常に良くわかりました。

で私がまあうちの鎌ケ谷の自治連合会の会長をやっておるんですが、ある自治会でいわゆる孤独死があったんですよ、でいろいろ見ましたら回覧物でどうも回ってこないってことで発見したということですが、その間に１５・６日経っていたということがわかりました。

それでいろいろこう調べていくとやっぱり回覧するのにですね、非常に時間がかかっていたということがありましたので、まあ対策として班を、その回覧するあれをですね半分に割ってですね、早く回すようにしました。

その方の亡くなったのは非常に気の毒で、なんていうんですかね、いわゆるゴミの集積する場所をねその都度清掃していたんだそうですよ、その方がその亡くなったのを周囲の方が気づかないでいたということがちょっとわかりましたので、まあ回覧物で発見したということであれば、そこを早く回転させるという対応をとっております、以上です。

会長　：　どうもありがとうございます。

どなたか次、ご発言ございませんか。

小林委員　：　たいしたあれじゃないんですが、私も今お話うかがって、平成元年より自殺者ゼロというお話ですね、すごいことだと思うんですね、ですからまあ施設の方々も随分やっぱりご苦労なさっているんだなあと、御礼申し上げたいと思っております。

うちの親戚の者も今一人お世話になってまして、今月誕生日行きますので、その時には行こうかと思っておりますので、お世話になります。

鈴木委員　：　はい、じゃあ。

先ほど課長さんからのお話の中でね、テレビでも言われたっていういわゆる無縁社会っていうことで、本当に去年も言わば去年あたりから流行語のような状況で、これも社会をまあ非常によく反映しているなという、かねがね思っていたところでございます。

本当にあのその背景にはですね、私も町会、自治会長も長く務めたこともございますけどもですね、いずれにいたしましてももう戦後、まあそんなことを話してもしょうがないけども、個人の

権利だけをね非常に重んじるということと、でその弊害とも言えることで非常に利己的になってしまったということで、例えば町会、自治会の役員をお願いに行ってもね、来年が私の番に来るなと思うとその前の年にやめちゃうとかね、そういうような何でってことで私にはとてもその役は務まりませんとかっていうことで、本当に全てが利己的になってしまうということで困り果てたことがございましてね、何かいい方法がないかなということでちょっと今の本件の話からはずれるかもしれませんけども、町会・自治会にとどめておく方法はないかなということで、いろいろ町会・自治会の何でもいいから関わりを持たせるようなことにしようっていうことで、たまたま私ゴルフの商売ですから、自分の商売にも多少引っかかって引け目もありましたけどもね、いずれにしても町会でひとつゴルフのコンペをやることによってね、奥さん方が普通町会・自治会の会合には一般的勤めている時代はね、奥さん方が主に出てくるっていうことで、何とかして旦那さんを引きずり出そうということでコンペをやりましたら、非常にこれがね、今現在の町会・自治会の役員は全部そのゴルフ仲間が今町会役員をやってるってなことでね、定年退職したらいち早くその町会・自治会にも協力するっていうことで、一般的に非常に人との関わりをそのなんていうかな、避けるんだと、まあ関わりたくないっていうのが若い時代であったかと思うんです、その人たちが段々段々と６５歳以上の高齢者になりましてね、結局核家族化が進んじゃって気がついたらおじいちゃんとおばあちゃん二人、そんな状態でね非常にあの独居なり高齢者家族が増えてきてる状態で、何としてもこれは現在のところはまああのそんな法律系なこと言ってもしょうがないから、隣近所で見守りすることが非常に大事だろうなあというふうに常々考えて、なるべく地域で関わりの持てる会合等を支援していこうと、いうことがより大事かなとそしてまあ各団体の民生委員さんもそうだし、地区社協の方々もいろいろとお骨折りいただいておりますが、そういうことが狙いだということを常々ね話をしながら私は進めている。

もう本当に慈祐苑さんのこの自殺者ゼロっていうのは、これはひとつのステータスで、それにしても大変すばらしいことだと思いますけども、全体的に見ると本当に特にまだ高齢者とまではいかない現役の者たちがね、本当に仕事を失って、今本当に社会福祉協議会の中でも、一昨年の１０月からその繋ぎ資金ていいます

かね、その借りがもう本当に増えちゃって、ここ１年ちょっとで一人大体まあ多い人で６０万、追加の人で含めてまあ一人２００万ぐらい貸し付けをしますけども、これが既に去年４，５００万ぐらいもう貸し付けているっていう、これはまあ国の施策として何とかして自殺をさせないような、自殺対策のためにそういう貸付をしているようでございますけども、この景気がいつまでね立ち直るかもわからないし、いろんな面でフォローしていかなきゃいけないのかなと、それにはやっぱり関わりをどうやって作っていくかって事が、私は大事だろうとこう考えています、以上でございます。

会長　：　どうもありがとうございます、どうぞ。

石坂委員　：　私も鈴木さんと同じ町会でして、本当にゴルフ仲間の方たちがね男性が生き生きとしてるのでね、とてもいいことだと思うんです、ただあの地域で声をかけましょうと言い合っても、本当におはようございます以上あとだしようがないのでね、それで市民のサークルでっていう仲間になると声かけも違うし、またこの前来たけどこの頃顔見せないねっていうようなそういう関わりが出来てくると思うので、昔ながらの婦人会とか消防団とか何でもいいですから、そのただ同じ地域に住んでいるだけじゃなくて、同じ同一支部とかサークルとか何でもいいので、それの中の一員としてね何かこう役割を持てたら、人間誰でも人の役に立ちたいと思うと思うんですね、役割がないと生きているのがつらくなるので、私もちょっと介護予防みたいなサークルをしてるんですけれども、一番高齢者が８２歳の女性なんですけど、その方は率先して公民館を借りる仕事っていうかね、役割をしてくださってもう本当に彼女が唯一一番休まない人なんですね、やっぱり役割があるので、で本当に生き生きとされてるんですね、だから小さなサークルですけど一人ひとりが全員何かこう、ただ来て遊ぶだけじゃなくて、役割を持つ人の役に立ってる、自分がいなければならないという存在、だから地域でもそういう何か役割がね、あっいつもの常連さんが来ないねって言われるような存在に、一人ひとりがなれたらいいなって本当に思うんですね、以上です。

会長　：　ありがとうございます、他に委員さんどなたか。

藤木委員　：　川村施設長さん本当にあのありがとうございました。

　ちょっと感想、僭越ですが感想を申し上げますと、その川村施設長みたいなパッションのある方が施設の長をしているから、非

常にその福祉施設なかなかあの私どもは、私は習志野保健所藤木と申しますけど、守りに入ってるっていうか携わるのが多いんですよね、で施設長の話し聞いてて長がパッションがあるかないかで本当に違ってくると、それとですね待ってる人たくさんいるんですかね、どこでもいるんですよ非常に、廻ってて。

で私常々思ってるんだけど、あの特別養護老人ホームをたくさん作る今から作る、まあそれもいいんですけど私のイメージの中では、地域そのものが特別養護老人ホーム、全体が、地域が特別養護老人ホームの機能を果たす、果たすというか形に持っていかないと、これから超高齢化社会に対応できないですからねまちがいなく。

それとあの自殺予防のあと観点から言えばですね、私十数年前までは３万人前の時に関わった時、個人的な問題じゃないのかとむしろ、で一応強がったんですけど段々自分で勉強、十数年勉強しまして、社会構造的な問題だとはっきりわかったんですね。

で自殺した人の聞き取り調査、助かった人の、した場合そのほぼ例外なく助けていただいてありがとうございますと、何で私をそのまま死なせてくれへんかったんや、ていう人はほとんどいないらしいんですよね、それで自殺、そのかなりの人が自殺をした人本人の勝手でしょと思う人が、一般の人は多いと思うんですけど、ただ助けられた人はほぼ全員がありがとうございましたと、というようなことがあって、で進めていかないといけないのと違うかなって感じでございますけれどね、いずれにしても今日は川村先生の話が聞けて非常に勉強になりました、ありがとうございました、以上です。

会長　：　どうもありがとうございました、島岡委員何かございますか。

島岡委員　：　はい、今の私も常々考えるんですがね、今の子供さんたちってのは私どもと違って塾で塾で、時間のないようなもう日常茶飯事なんですよね、それで今この子供さんたちが塾はいいけども、もう社会の体系があの核家族の時代に来ておりまして、昨日も教育委員会の話の中でいろいろ話出ましたけども、今奥さんたちがパートに出てるパートに出てるっていうのは、まあようするに核家族になって皆さんが建売買ったり、いろんな風になるから借金の埋め合わせでもって、しょうがなくて仕事やってるわけですよ。

昔のような体系だったらそういうことはもう決してないわけですね、おじいちゃんとかおばあちゃんたちが子どもを育てながら、

どんどんどんどんやってる時代ですから、そういう形の中から見まして、今私も自連協にいろいろお世話になってやってますけども、自連協の理事のメンバーでさえも年頃になったらきちっと老人会に加入するとか、そういう人たちがね大体今見たところ２４人のメンバーの中で、３分の１ぐらいしかいないと思うんですよ、老人会に加入する、俺は構わないんだ構わないんだってね、自分さえ良ければいいっていう、そういう社会風潮の時代に来ちゃってんですよね。

ですからやはりその原点を探って、皆さんで考え直すのもひとつの手じゃないかと思います。

それでやっぱり子供さんたちが自分の時間がなくて、いざいろんな問題にかかったときに判断できるような、そしてまたいい友達とか、先輩たちのアドバイス受けるっていうことが少ないと思いますね、まあまとまんないけどもそういうわけで。

会長　：　どうもありがとうございます、どうぞもう一度どうぞ。

石坂委員　：　はい、今お話うかがってね、自殺未遂の方が助けてくださってありがとうっておっしゃっていたって、無視されて本当に本当は生きたいんですよね、死にたいんじゃなくて生きるのがつらいから死を選ぶっていう形だと思うんですね、ですから本当にそのなんていうか突然死なれたってよくありますよね、何かのサインは出てるような気がするんですけど、その何かのサインがやっぱりどこにも届いてないのが現状だと思うんですね、ですのでやっぱりネットワークというか、ちょっと難しいですけど具体的にわからないですけど、そのやっぱりつながりですかね、そのサイン小さなもの、その慈祐苑さんのようにね目がたくさんあって見守りがしっかりしてると、そのサインを見逃さずにこう事前に防ぐことが出来るんでしょうけど、やはり広い地域となると漠然としてしまって誰かが注意してるだろうとかね、この場合もゴミ出し、せっかくゴミの掃除してた方がボランティアしてた方が、何日もしなかったのにもかかわらず回覧板が滞ったことで発見されてっていうの、本当にゴミ出ししてる方は、あれっ今回ゴミきれいになってないなってたぶん気づかれたと思うんですね何回分かはね、それでも誰かが何とかするだろうぐらいで多分ほっといたのかなと、ちょっとがっかりしたんですけども、やっぱり小さな気づきがどこかに必ずポッとこう繋がるようなね、システムっていうか、今個人情報なんとかて言っていろいろ情報はうるさいですけれど

も、そういう意味でのネットワークはね、ある程度こう作っておいていいと思うんですね、国民に背番号つけてはいけないとか言いますけども、そうではなくてその個人情報の悪用ではもちろんなくて、その命を守るためのね、ひとつピッてなんか一ヶ所からピピピピッてこう横に連携して走るような、そういうのが出来たらいいなって思うんですけれども。

藤木委員　：　いいですか、ちょっと違う視点からあれしますと、絶望して自殺するんじゃないんですよね、生きることと、生きていくことと死ぬことのほうは、死ぬことのほうが、自殺のほうがエネルギー要るんですよ。

　で絶望して自殺するってことはありえないと私思ってるんですよね、自殺のほうが希望なんですよ、希望がゆえに自殺するんです、絶望すれば絶対人間自殺しないんですよね、要するにエネルギーの問題なんですけど。

　これはまあ私の若い時のあれなんですけど、あの亀井勝一郎っていう昔有名な思想家がそのことを論評しておったんですがね、２０代に読んだんですけども４０数年前に読んだ本ですけど、エーっと思ってまだいまだに残っておるシーンが、その絶望しているっていうふうなとらえ方も、もちろん今言ったネットワークも必要なんですけど、希望である面が実はそういうことが充分切り口も頭の中に入れておかないと、こう下手すれば上から目線になってしまう、ちょっと失礼な言い方なんですけど助けてあげましょうかとか、そこやっぱりちょっとこう注意せんといけん面かな、まあ自戒も込めて言うんですけどねそんな感じがします、ちょっと余談かもしれませんが。

会長　　：　はい、どうも。

　それでは山本委員何かありますか。

山本委員　：　はい、病院のほうのこう話なんですけども、今、月にですね救急車が大体５００台ぐらい来るんですけども、まあ自殺の患者さんていうのは３日に１回ぐらいで、３日に１人ぐらい来られてんですよ、ですからまあ月にすると１０人ぐらい自殺されてんですよね、それのほとんどは薬物中毒というか、もらっている睡眠薬とかを大量にこう溜め込んでいたのを飲んでっていう方がまあほとんどなんですよね、でまれにリストカットの方とか来られますけど、そういう方は処置してよくなって退院っていうことになったらですね、前にもちょっとお話ありましたけども、まあかかり

つけのそういう薬で自殺された方はかかりつけのこうドクターがいますのでね、まあ必ずそっちのほうにこう連絡して、その後自殺再度起こさないようにして下さいって、なるべくお願いするようにしてますし、まあ今後もそういう形でやっていきたいと、そんなふうにぜひ協力したいなというふうに思ってます。

あとまあそれ以外にリストカットなんかでこられる方は、かかりつけの医者がいないとかっていう状況がありますんで、そういう方にはですね、その鎌ケ谷市で取り組んでいるこういう声かけのメッセージみたいなのをですね、ぜひ利用させていただければいいかなというふうに思っています。

あと老人施設の方で、平成元年以来一人も自殺した方がいらっしゃらないってお話あったんですけども、僕らの病院まだ３年半しか経ってないんですけども、実際飛び降り自殺した方ってのが３人ぐらいいるんですよ、それでまあそういう方がいるんでいろいろハードの対策としては、窓がこのぐらいしか開かないようにするとかですね、そういうハードの面で工夫はしてるんですけども、結局そういうことをされた方、あるいはまあしそうになってなんとかみつけた方ってのも、やっぱり家族に引き取ってもらうしかなくなって、そういう家族の人に引き取ってもらった、引き取った家族の人のやっぱりサポートもちょっと必要になると思うので、私もあんまりよく知らなかったんですけども鎌ケ谷市がその中心になって、こういう心の相談センターみたいなのを作られてるんですから、これはちょっと院内でも良く話をして広めてですね、ぜひそういうとこを活用させていただければなというふうに思います。

会長　：　どうもありがとうございます。

それでは市役所のほうの委員さん、稲生委員お願いいたします。

稲生委員　：　先ほどのですね慈祐苑の先生のお話、非常に興味深く聞かせてもらいましたありがとうございました。

私どもの部では先ほどから言ってる配布物も担当しておりますし、あるいは本当に島岡会長さんにはいつもお世話になっておりますが、自連協の関係の市民活動推進課って所もございます。

仕事してて感じるのはですね、先ほどのお話島岡会長さんもおっしゃっていましたが、老人会入らないという方がいらっしゃる、自連協への加入率っていうのもなかなか、自連協さん本当ご努力いただいてるんですがそれとはまた話が別って。

自分は直接こう実害がないというかですね、その周りに対する関心が少ないのかなって気がしてならないんですね。

ですからそういうことが、関心を持ってもらうことが先ほどお話をいただいたような中でですね、気がついてもらえるようなことに繋がってく、いわゆるその地域の方からのいろんなサインみたいなものにも繋がるんだと思うんですよね、ですからいかにその地域の中でその人が役割を持つとか、役割が出来る人はいいんですけどもそうではない人そういうことが出来ない人を、いかにこう拾い上げることが出来るようになるか、というところが課題かなというふうに感じているところです。

会長　：　どうもありがとうございます、鈴木さん何かございますか。

鈴木参事　：　先々週ですか、中沢のほうで高齢者夫妻が亡くなってるのを、私どもの高齢者支援課の職員が鎌ケ谷警察署のほうに通知をして、新聞報道されたというような事件がございました。

実は年齢がまだ８４歳だったということで、昨年足立区のほうであった事件で私どもの市として、８５歳以上の方についてはいろんな情報を集めて、生きてらっしゃるというような状況で把握しておったんですけども、まあその８４歳ということで、もれた関係がございました。

まあこれ今後ですね私どもこれを契機にですね年齢を７５歳まで引き下げて、その対象を見守っていくというようなことも含めた形で、対応さしていただきたいというふうに思ってございます。

会長　：　はい、どうもありがとうございます。

それでは委員の先生方に一通りご発言をいただきましたので、事務局最後のその他というところで何かございましたら。

事務局　：　はい、委員の皆様貴重なご意見本当にありがとうございました、慈祐苑さんの中でのその入所されてる方々の、たとえでいわゆるこう地域、慈祐苑そのものがもう地域なんだっていうとらえかた考え方、保健所長さんのお話ともつき合わせて考えますと、わかりやすい内容が今日はあったのかなと思います。

そういったあたりのところが、とてもこう深く参考になることが多いかと思っておりますので、それをすこし活用させていただくことが一点と。

あとは子供ってことで今キーワードがちょっと出てまいりましたので、子供さんの自尊感情をやっぱり育てる、自分はもう自分でいいんだって、達成感がちゃんと感じるられるような子供を作

るんだって、あたりのことを含めて次回は６月頃予定したいと考えているんですが。

その次回の６月頃には教育現場のほうからの、そういったお話を受けられるような時間を作れればよろしいかなと考えておりますので、そういった点でまたご協力いただきたいと思います、どうぞよろしくお願いいたします、本日はありがとうございました。

会長　　：　はいどうも、それでは中１時間にわたりご協力いただきまして、本当に約１時間というお話でしたので、ちょうど１時間ぐらい経ちましたので、本日の会議これで終わりたいと思います、よろしく、ありがとうございました。

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。
平成２３年　3月１６日

氏名　石坂　ミチエ

氏名　山浦　正次